

インターバンクの声（2016年4月26日）

昨日のアジア市場でドル売り・円買いが進んだのは、急速に進んだ円安に対する警戒感や週末から膨らんだドル買いポジションの利益確定が主たる背景だった。ただ、その後のロンドンとニューヨーク市場では様子が少し異なっていた。金曜日にはあれほど日銀の追加金融緩和観測を材料にしたドル買いが進んだのに、昨日は原油先物相場の下落や欧米株価の全面安も勿論あったが、日銀の金融緩和の内容がかなり限定的になるのではとの見方になり始めていたことも影響していたようだ。金曜日は、政府・日銀が市場の反応を見るために、海外の金融情報サービス会社を介してマイナス金利の適用範囲を拡大させる緩和内容を意図的にリークさせたとの噂もあるが、事の真偽は別にして、昨日の市場の動きからは政府・日銀も困っているに違いない。米連邦公開市場委員会(FOMC)がどのような決定をしてくるのかも見極めなければならないが、幸いにしてFOMCと日銀の金融政策決定会合の日程は一日ずれており、日本時間28日の未明に発表されるFOMCの結果から日銀が決定を調整することも可能だ。さすがに今日の東京時間は動き難くなりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。